

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
青年心理学		保育・食育学科/3年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
青年期の発達の特徴、身体の発達、知的発達、自己発達、自己形成、人間関係の発達、社会的発達、青年と文化、青年期の精神病理現象、青年期への心理的援助等について学ぶ。青年期の発達課題について学び、誕生から青年期に至るまでの発達の連続性を見通して保育を行うことができるための知識を学習する。				
授業終了時の到達目標				
青年期の発達の特徴、身体の発達、知的発達、自己形成、人間関係の発達、社会的発達、青年と文化、青年期の精神病理現象、青年期への心理的援助について理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		精神保健福祉士として5年間勤務し 心理系についての知識を深めている。		
時間外に必要な学修				
自分が抱える悩みを整理する。				
回	テーマ	内容		
1~2	青年期と青年心理学	青年期とは エリクソンの発達理論		
3	制延期の思考と感情	思考・自尊感情・価値観などについて		
4~5	身体とジェンダー	ジェンダー、恋愛などについて		
6	自己とアイデンティティ	アイデンティティの確立について		
7~8	家族と友人	親子関係、友人関係について		
9~10	学校と学習	学校における人間関係や意欲などについて		
11~12	進路と就職	学校から職場への移行や職業観について		
13	社会	文化、流行、居場所などについて		
14	障がい	不登校、いじめ、摂食障害など		
15~16	大人になるとは	結婚、親、世代間関係について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認テスト60% 提出物20% 授業態度20%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子どもの健康と安全		保育・食育学科/3年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	西原 和代
授業の概要				
<p>保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。            保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。子どもの体調不良等に対する適切な対応について、保育における感染症対策について、具体的に理解する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解し、子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		開業助産師として地域の子育て支援に関わっている。また訪問看護師(19年間)として、障害児の養護に関わり家族支援を行ってきた。		
時間外に必要な学修				
教科書による事前学習				
回	テーマ	内 容		
1	子どもの健康と安全	健康と安全について		
2	子どもの健康と発育	成長と評価について		
3	子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ	環境と養護について		
4	子どもの事故とその予防	事故やけがについて		
5	子どもに多い病状・病気とその対処及び予防	子どもの病気について		
6	障害を保つ子どもと家族へのかかわり	障害もつ子どもと家族について		
7	児童虐待	定義・予防・対処について		
8	災害の影響から子どもを守る地域との連携・協働	保護者と地域における専門職との連携・協働		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認テスト60% 授業態度 40%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
乳児保育 I		保育・食育学科/3年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西原 和代
授業の概要				
乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について学び、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。				
授業終了時の到達目標				
乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。 保育所・乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解する。 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	開業助産師として妊産婦や地域の子育て支援の経験あり 経験を活かし、乳幼児の成長過程を伝える。			
時間外に必要な学修				
赤ちゃんの育つ過程を学習する。				
回	テーマ	内容		
1~ 2	乳児保育の意義・目的と役割	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 乳児保育の役割と機能、養護及び教育		
3~ 6	乳児保育の現状と課題	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 保育所、保育所以外、家庭的保育等における乳児保育 3歳児未満とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場		
7~ 9	3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育	3歳児未満児の生活と環境、遊びと環境 3歳以上児へ移行する時期の保育 3歳児未満児の発育・発達を踏まえた援助、関わりや配慮		
10~ 12	乳児保育における連携・協働	職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 自治体や地域の関係機関等との連携・協働		
13~ 15	練習	おむつ交換・授乳・調乳・沐浴等		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
乳児保育		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度 30% 確認試験 50% 課題レポート20%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
乳児保育Ⅱ		保育・食育学科/3年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	西原 和代
授業の概要				
3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し、計画の作成について、具体的に理解する。				
授業終了時の到達目標				
3歳未満児の発育・発達の過程や特性を理解し、援助や関わりの基本について理解できる。 3歳未満児の生活や遊びなどについて理解する。 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し、計画の作成について、具体的に理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		開業助産師として地域の子育て支援に関わっている。		
時間外に必要な学修				
教科書による事前学習				
回	テーマ	内容		
1	乳児保育の必要性	社会的背景を考える		
2	乳児保育の成り立ち	歴史と現状について		
3	乳児保育に関係ある法律	児童福祉法、保育所保育指針について		
4	乳児のこころの発達	人見知りなど身近な人との絆作りについて		
5	乳児のからだ	発育と運動機能の発達		
6	保育所でのデイリープログラム	年齢別日課表		
7	保護者との連携	協力関係について		
8	発達の遅れ	保護者を支える		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
同文書院「はじめて学ぶ乳児保育」第二版		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認テスト60% 授業態度40%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育・教職実践演習		保育・食育学科/3年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
<p>1. 教育課程の全体を通して、保育士・教諭として必要な保育・教育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。</p> <p>2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育・教育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士・教諭、保育・教育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する。</p> <p>3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育・教育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着を図る。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>以下の視点について理解し、習得、形成状況を把握している。</p> <p>①保育士・教諭の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理</p> <p>②社会性・対人関係能力</p> <p>③子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携</p> <p>④保育や子育て家庭に対する支援の展開</p> <p>自身の習得した知識・技術等と保育・教育に関する課題等から、自己の課題を把握できている。その上で、目指す保育士像・教諭像や今後に向けて取り組むべきこと及びその具体的な手段や方法等を明確化し、保育・教育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力が定着できている。</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	幼稚園教諭10年 現場経験を活かして、幼児教育者・保育者としての自覚と責任、専門的知識や技術などを伝える。			
時間外に必要な学修				
今までの学習や実習を振り返り、自己課題を見つける。				
回	テーマ	内容		
1~2	学びの振り返り	意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理		
3~4	学びの振り返り	社会性、対人関係能力		
5~6	学びの振り返り	子どもやその家庭の理解 職員間の連携、関係機関との連携		
7~8	学びの振り返り	保育や子育て家庭に対する支援の展開		
9~12	課題検討	保育・教育に関する課題の検討		
13~16	自己課題	各自の習得した知識・技術等と保育・教育に関する課題等から、自己課題の把握		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育・教職実践演習		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度30% レポート50% 発表20%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態	
保育演習Ⅲ		保育・食育学科/3年	2021/通年	演習	
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員	
90分	30回	2単位(60時間)	必須	元木 倫子	
授業の概要					
<p>実践的体験を通して保育技術を学ぶ。  協力や相談しながら、自分の意見が言えるようになるために、いろいろな経験をする。</p>					
授業終了時の到達目標					
<p>保育のネタを数多く自分のものにする。  保育技術を実践経験を通して身につける。  自分の意見を相手に伝える。</p>					
実務経験有無		実務経験内容			
有		幼稚園教諭として幼稚園に勤務10年間			
時間外に必要な学修					
子どもたちが喜ぶ教材を調べる。					
回	テーマ	内容			
1	保育演習とは	保育演習とは 何を学ぶのか?学ぶ姿勢について			
2~ 30	保育実践演習	保育現場で使用できる保育技術の習得 ・手遊び ・おもちゃ作り			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他	
手遊び百科 適宜プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度 60% 発表と提出物 40%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅱ		保育・食育学科/3年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
就職活動において必要な心得やスキルが取得できる。動画で要点を学び、宿題を通じて問題や課題を発見し、授業で解決していく。なお、動画は自宅などで事前に視聴することを前提とする。授業はグループワークを主とし、発表を通じて、理解を深めていくスタイル。				
授業終了時の到達目標				
就職活動に必要な考え方やスキルはもちろん、社会で活躍するライフスキルも身につく。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	履歴書の書き方と伝え方	基本情報と趣味を書く。グループで回し読みをし、評価をする。		
2	自分を知る工夫(1) 記憶からたどる	グループで確認と共有 ベストニュースや20答法を発表し、どんな特性(強み)があるのか、グループで議論		
3~ 5	自分を知る工夫(2) 他者の力を借りる	グループで確認と共有 自分はどんな特徴があると考えたか(その理由も) お互いを取材し、相手の自己PRを作る グループ内で発表し、一番良いものは全体で発表		
6	志望動機を書く	各自志望動機を書く		
7~ 8	面接	模擬面接実施と練習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業にの臨む姿勢 100%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
接遇		保育・食育学科/3年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	後藤ケイ子
授業の概要				
1. 社会人として必要なマナーを習得する。 2. 専門職にふさわしい言葉づかいや気配りについて学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・マナーの基本を理解し、基本が実践できる(身だしなみ、表情、挨拶、態度、言葉づかい) ・対面対応の基本、電話対応の基本を理解し、職場における必要な基本的コミュニケーション技術を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		自治体(国・県・市・町)の初任者研修、一般職員の接遇研修等(24年) 学校(小学校・中学校・高校・短大・大学・専門学校)接遇(24年)		
時間外に必要な学修				
授業内容の特に実践は、日常生活でも繰り返し実践して復習する。				
回	テーマ	内容		
1	・社会人としての心構え ・公衆のマナー ・基本のマナー	・社会人としての心構えの講義 ・公衆マナーについてプリント作成 ・身だしなみ・表情・挨拶・態度についての基本のチェック、		
2	・基本のマナーの振り返り ・コミュニケーション技術 ・言葉づかい	・身だしなみ、表情、挨拶、態度をビデオ撮影し、モニターで振り返り ・聞く、話すの基本の講義、実践		
3	・来客対応マナー ・訪問マナー	・お迎え、受付、案内、お茶だし、お見送りの基本の講義・実践 ・訪問マナーの基本の講義、実践(名刺の扱い)		
4	・来客対応マナー ・訪問マナー	・お迎え、受付、案内、お茶だし、お見送りの基本の講義・実践 ・訪問マナーの基本の講義、実践(名刺の扱い)		
5	・接客対応マナー	・接客対応マナーの基本(入居者・ご利用者様等)(園児・保護者等) ・実践		
6	・接客対応マナー	・接客対応マナーの基本(入居者・ご利用者様等)(園児・保護者等) ・実践		
7	・電話対応マナー	・電話対応の基本の講義 ・電話をかける、電話を受ける、電話を取り次ぎ方の実践 ・第一声の録音		
8	・電話対応マナー	・電話をかける、電話を受ける、(在席、不在)メモの取り方 ・実践		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
(有) オフィス後藤 「ビジネスマナー」		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認試験 70% 授業態度(実践含む) 30%



作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と体育		保育・食育学科/3年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	元木 倫子
授業の概要				
5領域の「健康」を実践を通して考える。 幼児体育の側面から子どもの健康を考え、保育を立案し実践する。				
授業終了時の到達目標				
グループで協力しあい、保育内容を立案することによってチームワークの大切さを学ぶ。 自分と他人の意見を互いに出しあいながら、子どもにとって何が必要なのかを考える。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園・保育所にて体育指導25年経験 障害児の体操指導3年経験 香川県教育委員会保険体育科課 体力向上指導者研修会講師 実際にスポーツを行いながら、子どもの指導ポイントについて伝える		
時間外に必要な学修				
幼児期に必要な運動遊びについて考える。				
回	テーマ	内容		
1	幼稚園・保育所	幼稚園教育要領 保育所保育指針 5領域「健康」		
2	健康とは	健康の定義 生活と健康 感染症と健康		
3	運動	運動の発達 運動と健康		
4		子どもの運動あそび①		
5		子どもの運動あそび②		
6		子どもの運動あそび③		
7~ 11	立案	運動あそびの保育立案と準備物の作成		
12~ 13	練習	各グループにて、練習		
14~ 15	実践と反省	幼稚園にて 各グループで発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 発表 60% 平常点 40%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医学一般		保育・食育学科/3年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
<p>疾病の予防と健康管理に軸を置き、人体各部の基礎知識について保育士に求められる一般的知識を学習する。            人体の構造、機能、感染症と予防など。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>人体の構造・機能を理解する。            感染症を理解するとともに予防に取り組む環境作りができる</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
<p>体の構造について調べる。</p>				
回	テーマ	内容		
1	からだのキホン	からだを作っているものたち(基礎知識)		
2	からだのキホン	循環器系・リンパ系		
3	からだのキホン	免疫系・呼吸器系		
4	からだのキホン	神経系・感覚器系		
5	からだのキホン	自立神経系・生殖器系・泌尿器系		
6	からだの悩みを医学の目で診る	むくみ・貧血・冷え性・血圧		
7	からだの悩みを医学の目で診る	消化のシステムに関わる悩みについて		
8	からだの悩みを医学の目で診る	骨・関節・筋肉の問題、自律神経とホルモンの不調		
9	からだの悩みを医学の目で診る	神経と感覚器に関わる困りごと・お肌の悩み		
10	からだの悩みを医学の目で診る	感染症について		
11	からだのキホン	細菌感染・ウイルス感染・その他、微生物について		
12	からだのキホン	排泄について(成人と小児)		
13	からだの悩みを医学の目で診る	排泄障害(失禁、おねしょなど)		
14	からだのこと	リンパマッサージ、骨・筋肉を強くするには		
15	からだのこと	からだと気持ちのつながりを知る		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認テスト60% 平常点40%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
児童ソーシャルワーク		保育・食育学科/3年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
<p>児童に関する歴史や法律、児童福祉施設について概要を把握する。            ソーシャルワークの原則や援助技術を学び、グループワーク等を通して体感し、学びを深める。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保健児童ソーシャルワーカーの試験に合格できる知識を修得            ソーシャルワークの専門性や倫理を学ぶ</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<p>相談援助業務5年(病院)            現場で得た相談業務のノウハウを伝える。</p>		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1	児童ソーシャルワークについて	ソーシャルワークを学ぶ意義 児童の権利に関する条約宣言 児童憲章について		
2	児童に関する法律	児童福祉法について 児童福祉施設12種類について		
3	ソーシャルワークの種類 ソーシャルワークの専門性と倫理 個別援助技術	ソーシャルワークとは 知識、技術、価値と倫理綱領 ケースワークの過程・技法		
4~ 7	個別援助技術	ケースワークの過程・技法 バイスティックの7原則 ケースワーク演習		
8~ 10	集団援助技術	グループワークの意味と歴史 グループワークの原則、過程、技法 グループワークの演習		
11~ 12	地域援助技術	コミュニティワークの意味と沿革 コミュニティワーク演習		
13	その他の社会福祉援助技術 これからのソーシャルワークの課題	社会福祉調査法、社会福祉運営法、社会活動法、社会福祉 計画法の概要 日本における社会福祉の動向と課題		
14~ 16	児童ソーシャルワークの試験に向けて	資格取得の試験に向けての復習と過去問を解く		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認テスト60% 平常点40%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
点字絵本		保育・食育学科/3年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
点字を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
目が不自由な人が使用する点字について理解する。 また、どのように使用するのか経験する。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
点字器を使って、自分で文章をうつ。				
回	テーマ	内容		
1	点字について	点字とは		
2	点字の読み方・書き方	点字の読み方・書き方について学ぶ		
3~ 5	点字のルール	点字のいろいろなルールを学ぶ		
6~ 8	点字絵本を作成	各自作成		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 平常点70% 提出物30%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
食と健康Ⅲ (栄養学)		保育・食育学科/3年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位 (32時間)	必須	久留嶋 典子
授業の概要				
ライフステージにおける食事の役割、主に成人期、高齢期をあつかう				
また、食育インストラクター3級取得に向けた復習を兼ねる				
授業終了時の到達目標				
ライフステージにおける食事の役割を理解し、病気の予防を実践できる				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
身の回りの食品に興味を持つこと				
自分の食生活を大切にしようと努力してほしい				
回	テーマ	内 容		
1	成人期・高齢期の栄養	成人期の栄養		
2	"	高齢期の栄養		
3	病態と栄養、食事療法	食事療法の必要性		
4	"	栄養補給法		
5	栄養素の過不足と病気	栄養状態の評価・判定		
6	"	栄養素の過剰		
7	"	栄養素の欠乏		
8	さまざまな病気と栄養	消化管の病気と栄養		
9	"	肝臓、膵臓、胆のうの病気と栄養		
10	"	腎臓の病気と栄養		
11	"	循環器の病気と栄養		
12	"	代謝性疾患と栄養		
13	"	貧血と栄養		
14	"	食物アレルギーと栄養		
15	"	食物アレルギーと栄養		
16	"	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜配布		出席率 課題・レポート 期末試験	50.0% 20.0% 30.0%	授業中は意見を発言し、積極的に授業に臨みましょう。課題、レポートは毎回授業の終わりに実施します。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
食育実習Ⅲ		保育・食育学科/3年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	1単位(60時間)	必須	久留嶋 典子
授業の概要				
保育現場における食育の一部である調理の基礎を学び、食育指導としての知識を深める。				
授業終了時の到達目標				
成人の食事摂取基準に合った献立を通して、調理の基礎技術を習得する。 ライフステージ及び病態栄養について学ぶ。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
スーパーでの食品の買い出し、調理をおこなう回数を増やしてみましょう。 旬の食材を使った料理、保存食、郷土料理にも挑戦し、どんどんレパートリーを増やしましょう。				
回	テーマ	内容		
1~ 2	離乳食	初期・中期		
3~ 4	離乳食	後期・完了期		
5~ 8	幼児食	子どもが喜ぶメニュー(見た目と味) 学生がグループでレシピ考案し調理		
9~ 10	郷土料理	さぬきうどん、げんこつ飴		
11~ 12	世界の料理	肉まん(中国)		
13~ 14	親子で作れるパン作り	ロールパン、やきそば、(フルーツサラダ)		
15~ 16	親子で作れるパン作り	イングリッシュマフィン、クラムチャウダー、フルーツゼリー		
17~ 18	親子で作れるパン作り	ウインナーロール、グリーンサラダ、コンソメジュリエヌ		
19~ 20	親子で作れるパン作り	キッシュ、ミモザサラダ、にんじんのポタージュ		
21~ 22	親子で作れるパン作り	ナン、カレー、タンドリーチキン		
23~ 24	親子で作れるパン作り	ジャーマンカマンベール、コロッケ		
25~ 26	親子で作れるパン作り	キャラクターパン		
27~ 28	和菓子の伝承	どら焼き、わらび餅		
29~ 30	和菓子の伝承	みたらし団子、栗まんじゅう		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		出席率 課題・レポート 実習・実技評価	50.0% 20.0% 30.0%	課題・レポートは毎回授業の終わりに提出してください 実技評価は毎回の実習の中でおこないます。衛生的につくれているか、安全管理ができていないか、見た目よくできているかを評価のポイントとします。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
卒業研究		保育・食育学科/3年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
3年間の集大成として、オリジナルのエプロンシアターを作成し、発表する。 自分の保育観をまとめ、どんな保育者となるべきなのか自分で考える。その中で、子どもたちに自分は何を伝えたいのかをまとめ、エプロンシアターに結び付ける。				
授業終了時の到達目標				
実習先で感じた、子どもに学んだほしい・興味を持って欲しい内容を考え エプロンシアターを作成し、在校生の前で発表。その後、レジメにまとめて提出				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭10年 現場で子ども達が喜ぶポイントについてアドバイスを行う。		
時間外に必要な学修				
エプロンシアターについて各自調べる。				
回	テーマ	内容		
1	卒業研究の意義	卒業研究の意義		
2	先輩のDVD	先輩のDVDを視聴		
3~ 4	何を伝える?	子ども達に何を伝えたいのか考える		
5~ 8	構成を考える	どのような話にするのか? どのような流れにするのか? 工夫ポイント、見せ場は?		
9~ 21	制作	各自制作始める		
22	練習	各自練習		
23~ 24	リハーサルと手直し	リハーサルの練習と手直し		
25~ 28	発表	発表		
29~ 30	レジメ作成	レジメ作成		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 取り組む姿勢20% 発表60% レジメ提出20%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習Ⅰ（施設）		保育・食育学科/3年	2021/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
<p>児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解するとともに、観察や子ども・利用児（者）との関わりを通して子ども・利用児（者）への理解を深める。既習の教科目の内容を踏まえ、子ども・利用児（者）の保育及び保護者への支援について総合的に理解する。また、保育（援助）の計画・観察・記録及び自己評価等についてや、保育士の業務内容、職業倫理について具体的に理解する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>①役割や機能を具体的に理解する。            ②子ども（利用者）への理解を深める。            ③子どもの保育・利用者の支援・保護者への支援について総合的に理解する。            ④保育（支援）の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。            ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。            ⑥自分が立てた実習課題を達成する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<p>実習先の指導担当者は、保育士として勤務しており、現場の中で、保育士としての業務等の指導を行う。</p>		
時間外に必要な学修				
実習施設の調べ物学習 教材研究及び作成				
回	テーマ	内容		
1～45	施設の役割と機能	<p>施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わり  <small>施設の役割</small></p>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育実習事前事後指導		総合評価	100.0%	<p>【採点内訳】            評価については、実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮した上で採点を行う。</p>



作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅱ		保育・食育学科/3年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	選択	木曾 真理絵
授業の概要				
<p>保育実習指導Ⅱでは、事前指導として、保育実習指導Ⅰ・保育実習Ⅰ(保育所実習)、またその他の教科で学習した内容を基盤に保育実習Ⅱに向けた準備を行う。具体的には保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深める。さらに、指導計画書の作成や記録など保育の実践力を養うことを目的とする。また、事後の振り返りを行い、課題を明確にする。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。            実習の既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を習得する。            保育の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。            保育士の専門性と職業倫理について理解する。            実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
実習で使える教材づくり				
回	テーマ	内容		
1~8	保育実習による総合的な学び	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 子どもの保育と保護者支援について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育所保育指針		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度(提出物・発表含む) 70% レポート30%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅲ		保育・食育学科/3年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	選択	尾崎 桃子
授業の概要				
<p>保育実習指導では、事前指導として、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ(施設実習)、またその他の教科で学習した内容を基盤に保育実習Ⅲに向けた準備を行う。具体的には、子どもの最善の利益を基礎とした児童福祉施設における保育と養護の理解、また家庭支援など保育と支援の実践力を養うことを目的とする。また、事後の振り返りを行い、自己の課題を明確化する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育実習の意義と目的を理解し、施設について総合的に学ぶ。            実習の既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育・支援の実践力を修得する。            保育・支援の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育・支援の改善について実践や事例を通して学ぶ。            保育士の専門性と職業倫理について理解する。            実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育・支援に対する課題や認識を明確化する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		援助業務を5年 現場における施設実習の事前事後指導を行う。		
時間外に必要な学修				
実習施設の研究とともに指導案作成や教材準備 実習先のパンフレット、HPなどを熟読する。				
回	テーマ	内容		
1~8	保育実習による総合的な学び	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 子どもの保育(利用者の支援)と保護者支援について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド		総合評価	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習Ⅱ（保育所）		保育・食育学科/3年	2021/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	選択	木曾 真理絵
授業の概要				
<p>保育実習Ⅰでの経験とその後の学習をふまえて、自己課題をもち保育所の保育を実際に経験する。この実践を通して、生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を育成する。また、保育所の保育士に求められる資質・能力・技術を修得し、さらに自己課題を明確化していく。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。          子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。          保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。          保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。          保育士としての自己の課題を明確化する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1～45	保育所の役割や機能の具体的展開 観察に基づく保育理解 子どもの保育及び保護者・家庭への	養護と教育が一体となって行われる保育 保育所の社会的役割と責任 子どもの心身の状態や活動の観察		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育所保育指針		総合評価	100.0%	【採点方法】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習Ⅲ（施設）		保育・食育学科/3年	2021/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	選択	尾崎 桃子
授業の概要				
<p>これまで学習してきた理論を基礎として、福祉施設において生きた養護を学び、人間性豊かな保育士を育成する。保育所以外の児童福祉施設などの役割や機能について実践を通して理解を深める。また、これらの実践の中で家庭と地域の役割などに気付き、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解を深める。            家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援の知識、技術、判断力を養う。            保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。            保育士としての自己の課題を明確化する。</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	相談援助業務5年 現場経験を活かし、施設実習についてアドバイスを行う。			
時間外に必要な学修				
実習中には、利用者理解を務める。 障害や児童の発達状況を理解する。				
回	テーマ	内容		
1～45	施設実習  観察実習 参加実習	<p>児童福祉施設等の役割と機能            施設における支援の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受容、共感の態度</li> <li>・個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解</li> <li>・個別支援計画の作成と実践</li> <li>・子どもの家族への支援と対応</li> <li>・多様な専門職との連携</li> <li>・地域社会との連携</li> </ul> <p>保育士の多様な業務と職業倫理            保育士としての自己課題の明確化</p> <p>発達に適した保育・支援の指導計画を立案            一日を振り返り考察し、学びを深める            担当指導者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加する。</p>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		総合評価	100.0%	<b>【採点方法】</b> 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採点を行う。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育実習		保育・食育学科/3年	2021/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位(90時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
<p>これまで学習してきた理論を基礎として、教育現場において生きた教育技術を学び、人間性豊かな教師を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。</li> <li>・ 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して教育の理解を深める。</li> <li>・ 子どもの教育について総合的に学ぶ。</li> <li>・ 指導計画、実践、記録、省察及び自己評価等について実際に取組み、理解を深める。</li> <li>・ 幼稚園教諭の業務内容や職業倫理を明確化する。</li> </ul> <p>幼稚園における教育実践について専門教育科目を獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的にまた総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していく。達成するために第2回実習では、部分・研究保育を主とする実習を行う。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。          幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。          幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。          部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。          自己課題の明確化。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭10年 現場経験を活かし、実習のアドバイスをを行う。		
時間外に必要な学修				
実習先の子どもたちに沿った遊びを考え、どんな流れで保育を提供するのかを考える。 また、保育現場での必要な教材を作る。				
回	テーマ	内容		
1~45	幼稚園実習  観察実習 参加実習 部分・責任実習 全日実習 研究保育	<p>1回目の実習を基礎と、専門教育科目で学習したあらゆる知識、技術を統合しながら以下の内容を獲得していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園における1日の生活、活動の流れと生活、活動内容の概要を理解する。</li> <li>・ 遊び、生活場面での園児の行動理解</li> <li>・ 園児の行動に対する幼稚園教諭の対応</li> <li>・ 部分実習、全日実習、研究保育の指導計画の作成及び指導</li> <li>・ 幼稚園教諭としての保育技術の習得および態度の養成</li> <li>・ 幼稚園と家庭との連携の内容と方法の理解</li> </ul> <p>保育実践やその後の考察の中で、自己課題を明確にする。          幼稚園教諭としての仕事を具体的に学ぶ。          職員間の役割分担とチームワークの必要性を理解する。          安全及び疾病予防への配慮を理解する。</p> <p>発達に適した保育の指導計画を立案          一日を振り返り考察し、学びを深める。          担当教諭の指導や助言に従い、積極的に教育実習に参加する。</p>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼稚園教育要領		総合評価	100.0%	【採点方法】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採点を行う。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
音楽演習 I A (ピアノ)		保育・食育学科/3年	2021/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	濱崎 永美子

## 授業の概要

・音楽の基礎を徹底的に身につけ、簡単な曲、弾き語りの曲を弾けるようにする。

## 授業終了時の到達目標

・バイエル終了程度の技術を身につけ、簡単な童謡の弾き語りができる。

実務経験有無

実務経験内容

。

## 時間外に必要な学修

子どもも喜ぶ童謡を聞いたり歌ったりするし、ピアノの練習をする。

回	テーマ	内容
1	基本の理解	楽典の基礎、リズムの基礎
2	ハ長調の和音 I V 7	バイエル 1 ~ 1 2
3	ハ長調分散和音	バイエル 1 3 ~ 2 0 笙うと笙おのリズムの理解
4	ハ長調、下屬和音	バイエル 2 1 ~ 2 6
5	ヘ長調	バイエル 2 7 ~ 3 2
6	ト長調	バイエル 3 3 ~ 3 8
7	伴奏形のいろいろ	バイエル 3 9 ~ 4 2
8	拍子のいろいろ	バイエル 4 3 ~ 4 8 移調について、3/4と3/8、3/8と6/8
9	笙う。♪のリズム	バイエル 4 9 ~ 5 4 リズムの徹底
10	高い音、低い音	バイエル 5 5 ~ 6 0
11	8vaの練習、高い音	バイエル 6 1 ~ 6 7
12	臨時記号、半音階、16音符	バイエル 6 8 ~ 7 2 リズムの徹底
13	イ短調、重音	バイエル 7 3 ~ 7 8
14	3連符、転調、弱起の曲	バイエル 7 9 ~ 8 4
15	その他の調、装飾音	バイエル 8 5 ~ 9 0

回	テーマ	内 容		
16	こどものうた	かえるのうた・ちょうちょう		
17	"	大きな栗の木の下で・あめふりくまのこ		
18	"	クラリネットをこわしちゃった・おもちゃのチャチャチャ		
19	"	1年生になったら・さんぽ		
20	"	おはようのうた・おべんとう		
21	"	おかたづけ・おかえりのうた		
22	"	はをみがきましょう・むすんでひらいて		
23	"	やきいもグーチャーパー（再試時間をとる）		
24	"	そうだったらいいのにな（再試時間をとる）		
25	"	たんじょうび・みんなで作ろう		
26	"	B e e M a r c h ・ R U N		
27	"	各自、合格しなかったバイエル、必修課題曲の特訓及び集中スクーリングに向けての練習		
28	"	各自、合格しなかったバイエル、必修課題曲の特訓及び集中スクーリングに向けての練習		
29	"	各自、合格しなかったバイエル、必修課題曲の特訓及び集中スクーリングに向けての練習		
30	"	各自、合格しなかったバイエル、必修課題曲の特訓及び集中スクーリングに向けての練習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト使用		総合評価	100.0%	【採点内訳】 ピアノの演奏点 60% 平常点40%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
音楽演習 IB (器楽・声楽)		保育・食育学科/3年	2021/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	鈴木 佳美
授業の概要				
1. 保育の内容を理解し展開するために必要な知識や技能を習得させる。 2. 音楽に関する基本的な知識や技能を身につけ、それらに関する様々な活動を通して楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を習得させる。				
授業終了時の到達目標				
童謡は、アカペラで歌える曲を増やす。弾き語りできる学生は、積極的にレパートリーを増やす。 アンサンブルは、いろんなパートに取り組み、先生の立場で指導できるように努力する。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	ヤマハ音楽幼児科講師4年 障害児・障害施設にて音楽療法2年 こども園にて子育て支援、音楽指導1年現在継続中 現場経験を活かし、音楽技術、表現方法、指導法を伝える。			
時間外に必要な学修				
弾き語りで発表する曲の練習・合奏のパート練習				
回	テーマ	内 容		
1～6	こどものうたから選曲	春のうたと 合唱と合奏		
7～11	こどものうたから選曲	夏のうたと 合唱と合奏		
12～16	こどものうたから選曲	秋のうたと 合唱と合奏		
17～21	こどものうたから選曲	冬のうたと 合唱と合奏		
22	発表	各自選曲した曲を歌う		
23～30	実習事前練習	各自で歌を選曲		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
子供の歌、子供の歌(ベスト100)、やさしい器楽合奏		総合評価	100.0%	【採点内訳】 発表点60% 授業態度40%